

喜多方市市民活動 支援センター通信

Vol.20



平成 29 年度 第 5 号 (平成 30 年 3 月発行)

発行：喜多方市市民活動支援センター

『一言で味方を増やす奇跡の話術』というサブタイトルに、多くの方が興味を持ってくださり、定員を超える多数のお申込みを頂きました。ありがとうございました。

「正しく伝え相手に興味を持たせる話術を学ぶ」をテーマに、ひとつひとつ分解しながら詳しくお話しをしてくださいました。

講座のポイント

【正しく】何が正しいのか？

【伝え】伝えたいことは何？

【相手に】相手に信用、信頼されるには？

【話術を】How to

(会話や資料の使い方は？)

【学ぶ】教わるのではなく…自ら気付く！

“伝わる”ということは、相手に共感させ、行動を起こさせること。何を伝えるかではなく、なぜ伝えなければいけないか。心を伝えることが重要です。そのためには、相手の感情を感じながら、『なぜ』そうなのかを自分の言葉（経験）で話すことがポイントということです。

また、コミュニケーションで大事なことは“聴く”こと。相手のことを思って・感じて聴くチカラ。そしてそれを理解するチカラ。そうすれば、うまくしゃべれなくても『奇跡の話術』ができるのではないのでしょうかと、先生は締めくくっていました。

90分という短い時間でしたがとても濃い内容の講座で、参加者からは「とても勉強になった」「質疑応答が参考になった」等のご感想をいただきました。また「もっと聞きたかった」「ワークやディスカッションもあればよかった」というご意見もあり、第2弾を希望する声も多数ありました。

「震災復興からまなぶ市民活動」～東日本大震災7年目 復興の現状～

平成 30 年 3 月 10 日 (土) 14:00～16:00

講師：鈴木 亮 氏 (東日本大震災支援会全国ネットワーク【JCN】福島担当)



鈴木氏は鎌倉出身ですが、2012年9月に福島市に移り、JCNの福島担当として復興のお手伝いをする活動をされています。2017年4月、避難解除となったことをきっかけに富岡町に移り、「ふたば地域サポートセンターふたすけ」という中間支援団体の室長としてもご活躍です。鈴木氏は「やんわり・ゆっくり・よりあって」という“やゆよ”の精神で接することを大切にしているそうです。地元の方は表面上は笑っているけど、やはり内面にはいろいろ溜め込んで我慢してらっしゃる方がたくさんいるので、時間をかけて寄り添って、この7年間活動を続けてきたそうです。現在、仮設・借上げ住宅に住んでいる方は約1万4千人。今後は帰還困難区域のそういった方々を1か所に集約しようとしているそうです。そうすると、今までのコミュニティがなくなってしまい、またゼロから作らなければいけなくなる。以前はリーダーとなる人がいて引っ張ってくれていましたが、7年経った今、それもなかなかむずかしく、課題の一つだということでした。他にも、避難12市町村の復興の状況やNPO等の活動についてのお話、復興への「ロードマップ」を民間主導でつくる

取り組みなども聞かせていただきました。最後にこれから市民活動としてやっていくべきこと、考えるべきことについて、「何かを犠牲にするシステムからの脱却」「地域循環型の社会を」「地域の人・外の人を力を含ませる」「故郷への思いを継承していこう」など6つの視点をお話してくださいました。講演後は参加者からたくさんの質問もあり、震災8年目を目前に浜通りの状況などを知ることができた貴重な機会となりました。



開催報告 【人材育成事業】

「伝わる つながる 伝え方講座」
～一言で味方を増やす奇跡の話術～

平成 30 年 2 月 9 日 (金) 18:30～20:00 開催

講師：深澤 秀樹 氏

(福島市市民活動センター常勤顧問)



市民活動団体紹介

喜多方復興支援隊

代表 相田 頼広

(☎ 0241-22-1170)

【団体について教えてください】

2011年5月、地元の有志15名で結成した非営利任意団体です。『できるときに、できる人が、できることをしよう。』というところからスタートしました。2014年SNSを始めてからは、首都圏・広島・札幌等メンバーの輪が広がり、現在では臨床心理士・医師・音楽家・書道家・大学教授等々50名の仲間と、それぞれが得意とする分野を生かした復興支援活動を行っています。

【どのような活動をしていますか】

福島の現状を伝えるイベントを東京にて定期的開催。県内の美しい風景を収めたフォトCD、カレンダー等の収益金全額を義援金として南相馬市・富岡町等に届ける〔義援金総額119万円、支援物資500万円相当〕。広島の高校生と被災地仮設住宅に赴き、コンサートや広島お好み焼きの振舞、部屋掃除を行う。富岡町被災地バスツアーの実施。24時間無料電話相談室の開設。復興支援酒「会津長床」の発売、義援金を被災地へ。弘中淳一郎弁護士による法律相談。喜多方に避難してきている人への支援、お誕生会等のイベント開催。



南相馬市仮設住宅にて
全盲一人暮らしの
方のところへ訪問
(毎週千葉から
通っています)

喜多方復興支援隊
臨床心理士 相馬 勉さん

メンバーによる
被災地での活動様子



国連スタッフ 及び
喜多方復興支援隊
歯科医師
矢島千里さん

南相馬市の仮設住宅にて
歯の健康相談・心のケア (毎月東京から通っています)

震災で家も職場も失い帰りたくても帰れない、補助金打切りで住むところがない、生きる希望が持てない、心ない言動や偏見の目に苦しむ等々…。私たちは被災地や避難先で経済的・精神的に苦しんでいる人たちの、少しでもお役に立ちたいとの思いで活動し、公的援助は受けずに全て自費賄いで支援を展開しています。

【みなさんへ一言】

7年たって言えることは、多くの方との「出会い」があり「伝える」ことで「繋がる」ということです。復興はまだまだ。これからも支援が必要な方々に寄り添い、よく話を聴いて、実状をきちんと伝えていきたい、私たちにできる支援活動を続けていきたいと思っています。

関係書類の提出をお忘れなく!!

3月は年度末という団体が多いと思いますが、NPO 法人や喜多方市社会教育関係団体のみなさんは、毎事業年度が終了したら関係書類の提出が義務付けられています。

| | |
|--------------|--|
| NPO 法人 | ◆年度終了後3ヶ月以内に所轄庁に提出 ◆事業報告書、活動計算書など7種類 ※詳しくは福島県HPをご覧ください。 |
| 喜多方市社会教育関係団体 | ◆年度当初(4~5月)に喜多方市教育委員会生涯学習課生涯学習係へ提出 ◆H29年度事業報告・収支決算書、H30年度事業計画・収支予算書、会員名簿、役員名簿(代表者の連絡先も記入)、規約または会則 |

書類作成のお手伝いもしていますので、
お気軽にご相談ください!

喜多方市市民活動支援センター

〒966-0806

喜多方市字水上 6846

喜多方市厚生会館内

【TEL/FAX】0241-22-0603

【Eメール】info@shiencenter-kitakata.jp

【運営時間】8:30~17:00

(月~金曜日 ※祝日除く)

喜多方市市民活動支援センターは
NPO 法人喜多方市市民活動
サポートネットワーク(さぼねっと)

が運営をしています。

さぼねっとでは会員を募集しています。

詳しくは事務局まで!!

喜多方市
市民活動
支援センター
ホームページ

<http://www.shiencenter-kitakata.jp/>

団体・イベント・助成金などの各種情報を
随時更新しています!!
過去の広報紙も見ることができます!

~情報を募集しています~

広報紙の次回発行予定は6月です。6・7・8月のイベント情報は、5月中旬までにお寄せください!なお、市民活動団体の情報は随時受け付けています。皆さまからの情報をお待ちしています!!

NPO 法人
喜多方市市民活動
サポートネットワークの
Facebook・ブログ
もチェックしてみね◎